

トラック輸送情報（平成19年7月分）

平成19年10月16日

国土交通省 総合政策局 情報管理部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：平野、佐藤 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://toukei.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

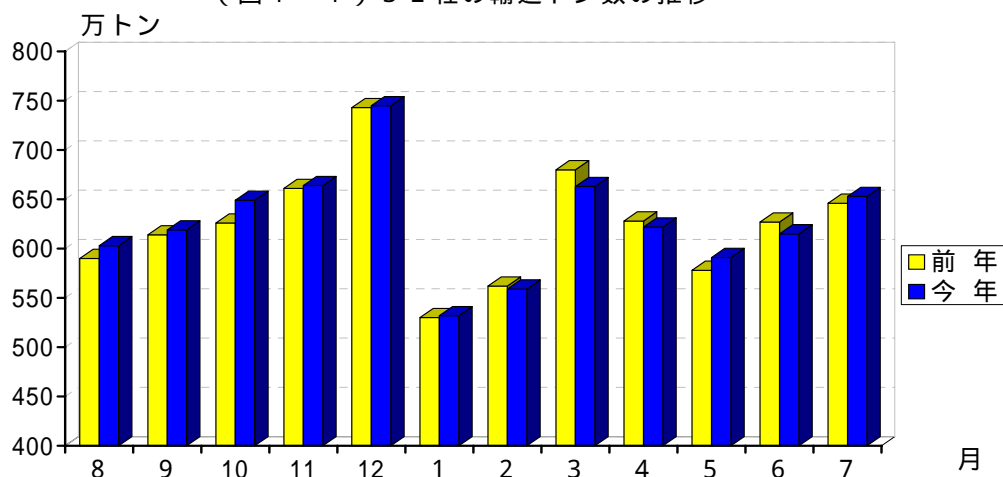
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、6,529,148トンで、前月と比べ総輸送量が約38万トン増加したため、前月比106.2%（季節調整済み99.8%）となり、前年同月との比較では、約7万トン増加したため、前年同月比101.1%の実績であった。

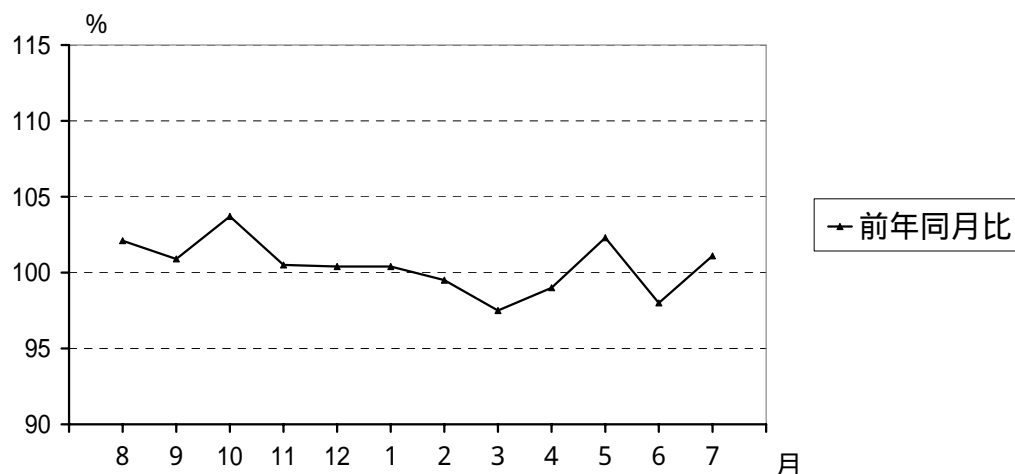
なお、平均稼働日数は24.4日で、前月と比べ0.6日の減少、前年同月と比べると同一の日数であった。稼働1日当たりの輸送量は、267,588トンで、前月と比べ約2万1千トン増加したため、前月比108.8%となり、前年同月との比較では、約3千トン増加したため、前年同月比101.1%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

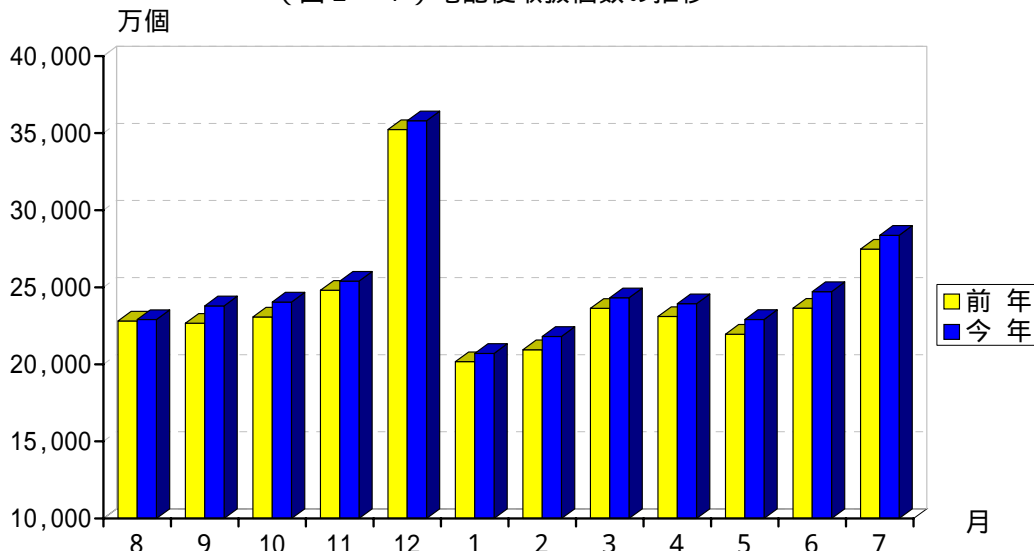


(2) 宅配便の概況

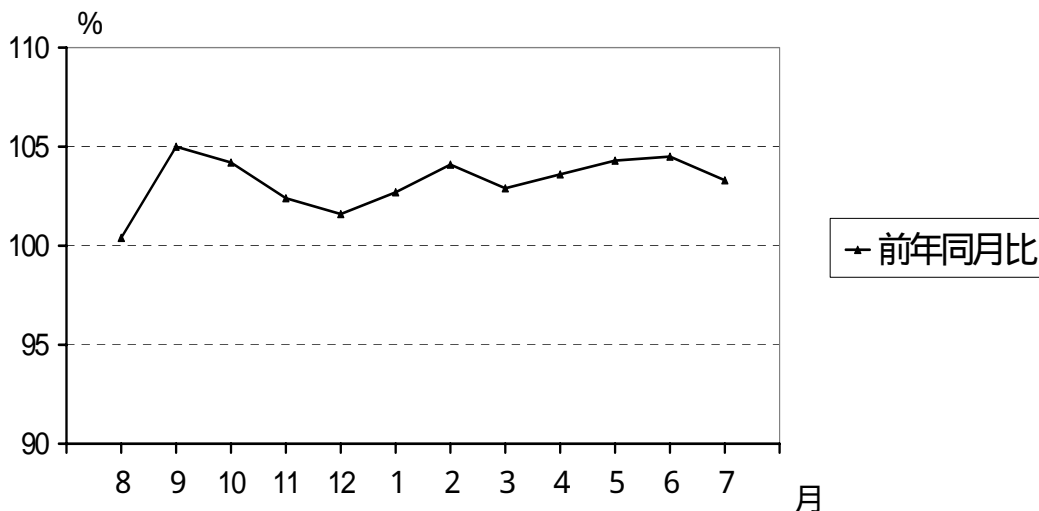
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、283,740 千個で、前月と比べ 約 3,658 万個増加したため、前月比 114.8% (季節調整済み 95.7%) となり、前年同月との比較では、約 896 万個増加したため、前年同月比 103.3%の実績であった。

(図2 - 1、図2 - 2参照)

(図2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表1参照)

前月と比べると、稼働日数は減少したものの、稼働一日当たりの輸送量が増加したこと等により貨物量が増加した。品目別では、ほぼ全ての品目で増加回答がみられた。増加要因としては、主に工場・生産地からの貨物増及び季節的需要による貨物増であったが、「化学工業品」では倉庫から出る貨物増が、「その他(宅配便・百貨店配送品)」では中元期の影響によるデパート等からの貨物増がみられた。地域的には、「食料工業品」及び「日用品」が東京、神奈川、愛知、兵庫の4大都市を中心に増加したほか、「その他(宅配便、百貨店配送品)」が東京、神奈川を中心に全国的に増加した。

前年同月と比べると、貨物量は微増であった。品目別では、「機械」で工場・生産地からの貨物増を要因とする増加回答が、「食料工業品(飲料・加工食品)」で倉庫から出る貨物増を要因とする増加回答がみられたが、その一方で「化学工業品」及び「日用品」等が、工場・生産地からの貨物減等を要因として減少している。地域的には、「機械」が東京、関東で、「食料工業品」が東北、関東で、「その他(宅配便)」が東京でそれぞれ増加した。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因	
	著増	増	変らず	減	著減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	2	1	14		1	青果物	東北、関東	
	金属製品		3	24				東京	
	機 械	1	5	19		2	その他の機械、機械部品	関東地方、北陸信越、近畿	4, 8
	化学工業品	1	6	20		3	合成樹脂、その他の化学工業品	東京、神奈川	4, 7, 8
	繊維工業品		2	23		4			
	食料工業品		6	16		4	飲料、加工食品	東京、神奈川、愛知、兵庫	8
	日 用 品	1	8	15		4	玩具、その他の日用品	東京、神奈川、愛知、兵庫、近畿、中国	4, 8
	そ の 他	4	8	13		3	書籍・印刷物		
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	2		14		2	宅配便、百貨店配送品	東京、神奈川、全国	2, 8
	金属製品		3	21		3	青果物		
	機 械	2	2	21		2		東京	
	化学工業品		4	22		3	その他の機械、機械部品	東京、関東	4
	繊維工業品		4	22		2	その他の化学工業品	東京、兵庫	4
	食料工業品		7	17		2	飲料、加工食品	東北、関東	7
	日 用 品	1	3	17		6	その他の食料工業品		
	そ の 他		6	14		7	その他の日用品		
						書籍・印刷物	関東、中国、九州	9	
						宅配便	東京		

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 823 社 / 調査対象事業者数 1,072 社）の輸送量は、前月比 102.0%、前年同月比 102.1%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前 月 比	102.0%	103.7%	102.0%	103.5%	103.3%	99.1%	102.9%	104.5%	99.4%	100.3%	93.5%
前年同月比	102.1%	102.2%	100.5%	100.4%	103.7%	99.8%	107.5%	104.1%	97.6%	104.3%	106.1%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比 103.7%、対前年同月比 102.2%であった。品目別には、本月も建設・土木工事が活発であり、こここのところ輸送量増加の要因として挙げられる「砂利・砂・石材」や「セメント」といった工事関連品目が好調に推移した。また、「穀物」や「野菜・果物」といった農業関連品目の輸送量も季節的需要増等により増加がみられた。今後の輸送見通しについては、お盆時期に一時的に輸送量が減少するものの、これから収穫期に入る農産物の輸送量の増加、工事関連品目の輸送量の維持が期待でき、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 102.0%、対前年同月比 100.5%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」の輸送量が増加したほか、建設関連の需要増により「セメント」が、輸出入増により「工業用非金属鉱物」、「紙・パルプ」等の輸送量が増加した。一方、季節的需要減により「穀物」、「金属製品」等の輸送量が減少したほか、工場・生産地からの貨物減により「その他の製造工業品」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 103.5%、前年同月比は 100.4%であった。品目別には、商社・問屋からの貨物増等により「金属製品」、「その他の製造工業品」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減により「その他の農産品」、「化学肥料」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、新潟中越沖地震の影響で輸送量が減少した事業者がいくつかあったが、管内全体では対前月比 103.3%、前年同月比は 103.7%と共に増加した。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」の輸送量が増加したほか、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」、「鉄鋼」、「機械」が、工場・生産地からの貨物増等により「非鉄金属」、「その他の石油製品」の輸送量が増加した。一方、工場・生産地からの貨物減等により「セメント」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は増加傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 99.1%、対前年同月比は 99.8%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増等により「セメント」の輸送量が増加したほか、商社・問屋又は倉庫からの貨物増等により「その他の化学工業品」、「食料工業品」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減により「その他の農産品」の輸送量が減少したほか、工場・生産地からの貨物減により「紙・パルプ」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 102.9%となり、中元期と夏期の飲料水需要が影響していると考えられる。また、対前年同月比は 107.5%であった。品目別には、季節的需要増により「その他の農産品」、「食料工業品」の輸送量が増加したほか、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「工業用非金属鉱物」が、工場・生産地からの貨物増等により「その他の化学工業品」等の輸送量が増加した。一方、「非鉄金属」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 104.5%、対前年同月比は 104.1%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」、「金属製品」の輸送量が増加した。一方、「木材」、「砂利・砂・石材」、「セメント」等の建築資材の輸送量に減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 99.4%、対前年同月比は 97.6%であった。品目別には、季節的需要増により「野菜・果物」、「その他の農産品」、「食料工業品」等の輸送量が増加した。一方、「繊維工業品」等の輸送量に減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 100.3%、対前年同月比は 104.3%であった。品目別には、季節的需要増により「穀物」、「食料工業品」、「日用品」の輸送量が増加したほか、建設関連の需要増により「鉄鋼」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減等により「野菜・果物」の輸送量が減少したほか、建設関連需要減により「砂利・砂・石材」が、工場・生産地からの貨物減等により「その他の石油製品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比で 93.5%となっており、台風の影響で貨物の遅配等が起こることによる減少と考えられる。また、対前年同月比は 106.1%であった。品目別には、建設関連の需要増により「鉄鋼」の輸送量が増加したほか、「機械（精密機器）」、「紙・パルプ（段ボール、ロールペーパー）」の輸送量が増加した。一方、前月と同様に「その他農産品（花卉）」、「水産品（マグロ）」の輸送量に減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		増	減											
1. 穀物	増	2										2		4
	減		3		1							1		5
2. 野菜・果物	増	3	6		4					3	1	1		18
	減		1									8		9
3. その他の農産品	増								1		1	1		3
	減	1			1	1	1						1	5
4. 畜産品	増									1		1		2
	減											1		1
5. 水産品	増	1	1							1				3
	減	2	2							1		1	1	7
6. 木材	増	4	1					1		1				7
	減	1			1				1	2		3		8
7. 薪炭	増													
	減													
8. 石炭	増					1								1
	減									1				1
9. 金属鉱物	増													
	減							1						1
10. 砂利・砂・石材	増	13	1		3	1	1							19
	減	7	1		1					2		4		15
11. 工業用非金属鉱物	増	1	3		1				1	1				7
	減													
12. 鉄鋼	増	1			2	1	1					2	1	8
	減	1			1	1	1		1			1		6
13. 非鉄金属	増				2									2
	減		1		1				1					3
14. 金属製品	増	3	1	1					1	4		2		12
	減		2		1				1					4
15. 機械	増	1			2				1	2		4	1	11
	減	1						1	1	3		2		8
16. セメント	増	3	2					1		1		1		8
	減	1			2	1				2		3		9
17. その他の窯業品	増		1		1				1	1		1		5
	減											1		1

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増	1								
	減		1									1
19. その他の石油製品	増	1			2		1	1		1		6
	減		1		1					4		6
20. コークス・ その他の石炭製品	増											
	減				1							1
21. 化学薬品	増				1			1				2
	減									2		2
22. 化学肥料	増	2	1		1							4
	減		1	1					1	2		5
23. その他の化学工業品	増					2	1	1			1	5
	減							1	1			2
24. 紙・パルプ	増		2				1		1		1	5
	減				1	1			1	2		5
25. 繊維工業品	増									1		1
	減					1		1	2			4
26. 食料工業品	増	1	4		1	1	5	4	2	4		22
	減	1	5				1	4	1		1	13
27. 日用品	増				1			2	1	2		6
	減				1			3		1		5
28. その他の製造工業品	増			2			1	1		3		7
	減		2	1		2		2		3		10
29. 金属くず	増											
	減											
30. その他のくずもの	増	1										1
	減											
31. 動植物性飼・肥料	増	2						1				3
	減	2		1				1	1	1		6
32. 廃棄物	増								1	3		4
	減							1		2		3
33. 輸送用容器	増	1										1
	減							1				1
34. 取り合せ品	増	1	1	1			2	1	1	2	1	10
	減					2					1	3
35. その他	増				2		1	3		8		14
	減				2			1		6	1	10